

吾人が市販真鉛を本法で試験せしに亜鉛及鉛は定量的に發散し之等の蒸氣は夫々石英管の冷き部分に凝固し鉛は加熱器眞上部で亜鉛は之よりは更に離れて遠くで固化す。

亜鉛と鉛とが蒸發度に大差ある事は兩者を分析する事に利用出来る。この場合第3圖の如く容管中に石英管eを容れる。上記分析作業中に於て鉛及亜鉛の一部分をe中に凝固せしむ。今度その管を600度に熱し亜鉛を驅除し石英管を秤量して残留鉛分を決定す。分析所要時間は豫め加熱し眞空にせる装置中へ第2圖の装置によつて試料を投入すれば大に短縮出来る。この装置は直角通溝を有するコックである。軸は管軸と交叉してある。孔溝の一つの口は漏斗狀に口擴りにして圖示の位置に於て装置は大氣と眞空管を絶縁してゐて粗粒狀の試料を外より漏斗内へ投入する事が出来る。矢示の方向に90度廻轉すればこの圓筒空虛は直ちに眞空となり更に90度廻せば試料は分析装置中へ落入るべし。試料が豫熱眞空せられたる石英管中へ散らばらずに落込む様に秤量管aは口幅廣く長いものを用ふ。即ち長さ50耗口徑9乃至10耗のものを用ふ。斯くして試料中の亜鉛及鉛は3乃至4分間で蒸發す。

冷却作業を促進し試料秤量着手を早める爲めには亜鉛及鉛が蒸發し去るや直ちに全装置に水素を流入し加熱爐と氷槽とを置換す、かくして30秒程で完全に冷却す。試料に關して注意すべきは3乃至4耗直徑の球狀體を最もよしとす。球は熔金を水中に流鑄しアルコールで洗ひ火焰で乾したのを用ふ。ゼンマイ秤りを用ふれば更に時間の短縮を望み得べし。

(川 端)

正 誤

(鐵と鋼 第十三年 第九號)

田邊友次郎「燒炭硬化するアルミニウム合金の研究」.(IV)

頁	行	正	誤
761		Table LXV	Table LXV
761	Table LXVI 中	shear	rhear
"	"	數直	數直
763	Table LXX 中	90h	90h
		mg/cm ²	mg/cm ²
		0.92	1.92
764	第一章文獻	J. Soc. Mechn. Engrs., Japan.	J. Soc. Mechn. Engrs.
764	本文 18	Al-Cu-Zn	Al-Cu-Zu
"	" 19	Zn=1%	Zu=1%
"	" 26	Portevin	Partevin